

## 「高等研究院フォーラム2005」が開催される

高等研究院フォーラム2005が、11月25日(金) 文系総合館カンファレンスホールにおいて、本学の教職員・学生・一般市民など、約60名の参加を得て開催されました。

このフォーラムは、高等研究院に属する優れた研究者たちの研究成果を広く学内外に発信するとともに、特定の研究テーマを取り上げ、研究者間で意見交換を行うことを目的としています。今回は、「アジアの共通理解と総合的支援体制」と題して開催しました。

フォーラムでは、北住炯一高等研究院長の挨拶の後、和田壽弘氏(高等研究院運営推進委員、文学研究科・教授)を司会として、杉浦一孝氏(法政国際教育協力研究センター長)の「アジアと法整備支援」、近藤孝弘氏(高等研究院教員、教育発達科学研究科・助教授)の「東アジアの歴史問題への政治教育的アプローチ：その必要性と可能性」、田中重好氏の「文化の翻訳：アジアにおける「公」と「私」の概念の比較」、多和田眞氏(高等研究院教員、経済学研究科・教授)の「東海地域の産業クラスター分析と東アジアの産業クラスターの形成」、そして中西聡氏(高等研究院教員、経済学研究科・教授)の「災害復旧を通じた近代化：関東大震災と百貨店」の5つの研究報告がなされ、アジアの共通理解の進展と、総合的支援体制の確立についての提言がありました。

これらの研究報告に引き続いてパネル・ディスカッションが行われました。司会は、長田博氏(高等研究院運営推進委員、国際開発研究科教授)がつとめ、パネリストとしては、研究報告者の方々にコン・テイリ氏(法政国際教育協力研究センター・助教授)が加わりました。奥村隆平高等研究院副院長がモデレーターとして参加し、アジア諸国における共同体のあり方や「公」と「私」の概念の違い、また、中国における企業活動の今後など、専門分野を超えての活発な議論がなされました。また、会場からの質問にも答えていました。

なお、今後も高等研究院では、研究成果を広く学内外に発信するため、高等研究院教員を中心とした講師陣による、特定の研究テーマに主眼を置いた高等研究院フォーラムを行う予定です。